



2月えんだより



社会福祉法人
北九州市小倉社会事業協会

2024.2.1 三萩野保育園 TEL (093)521-4094

先日、節分に向けて鬼のお面や顔など各クラス制作をしていました。一人ひとりの個性がよく出て、見ていてとても楽しくなる作品ができました。伝統的な行事に関する活動を通して、子どもたちにもいろいろなことを教えていきたいと思えます。



2日(金) 節分

3日(土) 以上児保育参加

7日(水) 卒園写真撮り(5歳児)

13日(火) 体操教室(4.5歳児)

21日(水) 誕生会

29日(木) 卒園式総合練習



つぼみぐみ

0名

すみれぐみ

0名

さくらぐみ

3名

うめぐみ

4名

ももぐみ

5名

まつぐみ

2名



恵方巻っていつから始まった?



2月の節分は二十四節気の最初の節気で、旧暦では新しい年の始まりを意味します。季節の変わり目には邪が入りやすいと考えられており、新年を迎える前に邪気を払って福を呼び込む行事として、豆まきの風習は室町時代の頃から始まったとする文献が残されています。それに対して、願掛けの行事である恵方巻の風習は、江戸時代末期、大阪の船場で商売繁盛祈願として始まったとする説など、複数の説がありますがどれも定かではありません。昭和初期に大阪で、恵方を向いて巻寿司を丸かぶりすると幸運に恵まれるという宣伝が行われました。そのときは「幸運巻寿司」といわれていたようです。この「幸運巻寿司」を食べる風習は戦争などの影響で一時は廃れますが、1970年代後半に大阪海苔問屋協同組合の行ったイベントを契機に復活し、関西地方に定着しました。さらに2000年頃からスーパー・コンビニで節分に巻寿司が販売されるようになり、「恵方巻」として全国に急速に広まりました。



そもそも「恵方」ってどんな意味?



恵方とは陰陽道でその年の福德を司る神、歳徳神(としとくじん)のいる方角のことで、その方角に向かって事を行えば、万事に吉とされます。節分に恵方を向いて巻寿司を丸かぶりするのはそのためです

今年の方角は…東北東だそうです。

